

2014 年度 環境活動レポート

(対象期間：2014 年 6 月~2015 年 5 月)



発行日：2015 年 6 月 15 日

ごあいさつ

弊社は、大正4年の創業以来「感謝と感動」を経営理念として活動してまいりました。そして、エコアクション21の活動に取り組むことで、より多くの方々に「感謝と感動」をお届けすることができればと願っております。

今後も継続可能な社会の実現のため、私たちは積極的にエコアクション21活動を通じた環境の維持、改善に努めてまいります。

株式会社黒田生々堂 代表取締役社長 黒田純司

株式会社黒田生々堂 環境方針

株式会社黒田生々堂は、地域社会の一員として環境保全が重要課題であることを踏まえ、エコアクション21の認証取得を通じて、すべての事業活動において自主的・積極的に環境保全活動に取り組むことにより、環境との共生・調和に努めます。

当社の事業活動における環境負荷の低減のため、行動指針を次のように定めます。

[環境保存への行動指針]

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 以下について具体的な環境目標を定め、実施計画を立て、継続的改善に努めます。
 - ①社内品のグリーン購入の促進に努めます。
 - ②脱地球温暖化社会のための二酸化炭素の排出抑制（省エネ）に努めます。
 - ③循環型社会の構築に向けて、事業所内より出される廃棄物の排出抑制に努めます。
 - ④事業所内の節水に努めます。
 - ⑤環境配慮製品の販売促進に努めます。
3. 当社の社員全員にこの環境方針を周知するとともに社外にも公開します。

改定日 2010年6月13日



代表取締役社長 黒田純司

1. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社黒田生々堂

代表取締役社長 黒田純司

(2) 所在地

本社：大阪府大阪市中央区南久宝寺町1丁目4番9号

東京オフィス：東京都中央区新富1丁目15番3号

名古屋オフィス：愛知県名古屋市中村区名駅南1丁目16番30号

(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

責任者 経営管理部 執行役員 本田滋 TEL：06-6268-0321

担当者 経営管理部 主任 井上祐一 TEL：06-6268-0321

(4) 事業内容

OA 機器・スチール家具・雑貨事務用品・ギフトなどの販売、オフィスレイアウト全般

(5) 事業の規模

製品販売額 97億円

	本社	東京オフィス	名古屋オフィス	合計
従業員	48名	7名	3名	58名
延べ床面積	502㎡	74㎡	50㎡	626㎡

(6) 事業年度

6月～5月

2. 認証・登録の対象組織・活動

登録事業所：株式会社黒田生々堂

対象事業所：本社、東京オフィス、名古屋オフィス

活動：OA 機器・スチール家具・雑貨事務用品・ギフトなどの販売、オフィスレイアウト全般

3. 主な環境負荷の実績

項目	単位	2011年 (基準年度)	2012年	2013年	2014年
二酸化炭素総排出量	Kg-CO ₂	72,203	67,617	66,799	65,783
	環境効率指標	-	-	7.10	6.78
廃棄物排出量	kg	2,958	3,055	2,569	2,577
	環境効率指標	-	-	0.27	0.26
一般廃棄物排出量	kg	2,958	3,055	2,569	2,561
産業廃棄物排出量	kg	0	0	0	0
総排水量	m ³	466	518	499	532
	環境効率指標	-	-	0.053	0.055

※環境効率指標は環境負荷÷売上高（百万円）で算出

4. 環境目標及びその実績（全社）

		2011年	2014年		2015年	2016年
		基準年度	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減	Kg-CO ₂	49,225	48,240	47,890	47,901	47,776
	基準年度比		98.0%	97.3%	97.3%	97.0%
ガソリンの二酸化炭素排出量削減	Kg-CO ₂	22,978	19,531	17,893	19,439	19,439
	基準年度比		85.0%	78%	84.6%	84.6%
上記二酸化炭素排出量合計		72,203	67,771	65,783	67,340	67,215
一般廃棄物（紙以外）の排出量削減	kg	728	728	995	728	728
	基準年度比		100%	136%	100%	100%
一般廃棄物（紙類）の排出量削減	kg	2,230	2,186	1,566	2,163	2,163
	基準年度比		98%	70%	97%	97%
節水	m ³	466	457	532	457	457
			98%	116%	98%	98%
社内グリーン購入の促進		-	グリーン購入 比率 50%	グリーン購入 比率 51%	グリーン購入 比率 55%	グリーン購入 比率 55%
環境配慮製品の販売促進		-	47%	44%	47%	47%

5. 環境目標及びその実績（各事業所）

			2011年	2014年		2015年	2016年
			基準年度	目標	実績	目標	目標
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	本社	38,418	37,517	35,801	37,265	37,227
		東京オフィス	6,677	6,677	7,829	6,610	6,543
		名古屋オフィス	4,130	4,046	4,260	4,026	4,006
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	本社	22,978	19,531	17,893	19,439	19,439
		東京オフィス	自動車未使用のため、なし				
		名古屋オフィス					
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	本社	61,396	57,048	53,694	56,704	56,666
		東京オフィス	6,677	6,677	7,829	6,610	6,543
		名古屋オフィス	4,130	4,046	4,260	4,026	4,006
一般廃棄物（紙以外）の排出量削減	kg/年	本社	588	588	801	588	588
		東京オフィス	107	107	153	107	107
		名古屋オフィス	33	33	41	33	33
一般廃棄物（紙類）の排出量削減	kg/年	本社	1,962	1,962	1,310	1,942	1,942
		東京オフィス	198	168	206	166	166
		名古屋オフィス	70	56	50	52	52
廃棄物排出量合計	kg/年	本社	2,550	2,550	2,125	2,530	2,530
		東京オフィス	305	275	360	273	273
		名古屋オフィス	103	85	92	85	85
水道水の削減	m ³ /年	本社	409	400	478	400	400
		東京オフィス	57	57	54	57	57
		名古屋オフィス	賃借ビルの就業人数による割合算出のため、実績なし				
社内グリーン購入の促進（購入比率） -		本社	-	50%	51%	55%	55%
		東京オフィス	社内品の購入が少量のため、本社に含めて評価する。				
		名古屋オフィス					
環境配慮製品の販売促進	本社	46%	47%	44%	47%	47%	

※電力のCO₂換算係数は、大阪 0.522・東京 0.530・名古屋 0.513

6. 環境活動計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

	具体的取組内容	評価	評価（結果と今後の取組）
二酸化炭素 排出量の削減	（電力）スイッチ付き OA タップ使用 による待機電力削減	△	<p>目標は達成したが、就業人数増により業務効率を考え、エアコン温度設定温度を変更する。</p> <p>【次年度の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷暖房の設定は冷房 26℃、暖房 22℃とする。 ・設備、照明、冷暖房機の節電 ・エコドライブ運動展開 ・環境効率指標 1%の削減
	（電力）エアコンの設定温度を冷房 28℃ 暖房 20℃に徹底	×	
	（ガソリン）エコドライブ運動展開	△	
一般廃棄物の 削減	マイ箸、マイカップ、マイ水筒運動の 推進	×	<p>文書の電子化や会議資料の削減に継続して取り組み、紙類の廃棄量は概ね目標達成といえる。ただし、紙以外について総量管理では目標未達成。ただし、これは就業人員の大幅増によるものであり、1人あたりの廃棄量で基準年度と比較した場合、約5%の削減となった。</p> <p>【次年度の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙類については引き続き文書の電子化を推進し、継続して取り組む。 ・環境効率指標 1%の削減
	使い捨て製品の使用や購入の抑制	○	
	詰め替えパックの有効活用	○	
	両面印刷の推進	×	
	LAN 活用による事務の合理化	×	
	3S 活動の実施	○	
節水	洗浄方法の見直し	△	<p>総量では目標未達成。ただし、基準年より大幅に人員増のため、1人あたりで見れば基準年と比較して約2割の削減となった。</p> <p>【次年度の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こまめな節水 ・掃除や洗濯時の節水（洗浄方法の見直し） ・環境効率指標 1%の削減
	節水運動チラシの貼りだし	○	
グリーン購入	社用品購入のチェックの徹底（本社一括管理）	○	<p>目標達成。コピー用紙・詰め替えトナーなど多くの社用品をグリーン購入に切り替え済み。</p> <p>【次年度の取り組み】</p> <p>継続取組により、購入比率 55%以上。</p>
環境配慮製品の 販売促進	環境配慮製品の販売に積極的に取り組む	△	<p>目標未達成により継続取り組み。</p> <p>【次年度の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮製品の販売に積極的に取り組む ・環境配慮製品を積極的にユーザーに情報提供を行う。
	環境配慮製品を積極的にユーザーに 情報提供を行う	△	

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物の分別排出
消防法	消火器・報知器等消火設備の維持管理
自動車 NOx・PM 法	府条例に該当する 4 台を適合車ステッカーにて管理
自動車リサイクル法	営業用自動車 6 台
家電リサイクル法	冷蔵庫 2 台
大阪市循環型社会形成推進条例	資源化可能物（紙類）

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されておりました。

過去 3 年間訴訟はありませんでした。

なお、関係当局からの違反等の指摘は過去 3 年間ありませんでした。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクションの取得より 6 年が経過しましたが、これまで継続してきた環境活動への意識は社員一人ひとりに根付いており、今年度も全社一丸となって取り組むことができました。

さて、本年度の結果について事業所ごと、環境目標ごとで多少の差はあるにせよ、全社的には前年度と比較して大きな削減結果を得ることはできませんでした。しかしながら、これは、6 年間の間で従業員のなかにエコの意識が定着し、各個人の取り組みで削減できる「無駄」が減ってきているものと理解しております。

なお、基準年と比較して大幅に就業人員が増加しており、総量での削減も限界であると判断したため、今年度は「二酸化炭素排出量」「廃棄物処分量」「排水量」において環境効率指標による管理を併用し、「一般廃棄物処分量（紙以外）」と「排水量」に従業員 1 人あたりでの目標管理を導入しました。

また、3 階事務所に設置しているウインドファンを 2 階に設置することを検討しており、これにより更に効果的に冷暖房を活用し、業務効率アップにつながるものと考えております。なお、就業人数増と業務効率を考え、エアコン設定温度を次年度より冷房 26℃、暖房 22℃に変更します。

これらを踏まえ、今後も全社が一丸となってエコアクション 2.1 に取り組み、継続可能な社会の実現に向けて、よりいっそう努力してまいります。

株式会社黒田生々堂 代表取締役社長 黒田純司